

## 「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号:6 事業名:やまなし・しごと・プラザ事業費

アドバイザー	評価区分	評価内容
村上アドバイザー	「要改善」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネット検索による就職活動等の増加により利用者数が減少傾向にあるとのことだったが、今後は時代のニーズに合った窓口にしていく必要がある。</li> <li>・新卒者向けには、ユースバンクやまなし等SNSの利用で若者が山梨にいたいと思える斬新な企画やスタイルで進めてほしい。また、ユースバンクやまなしの存在を知らない人が多いので、周知方法を考えて増やして欲しい。</li> <li>・ジョブカフェランチについて、山梨大学以外の大学でも実施してほしい。</li> <li>・今後人手不足により労働年齢が上がることを考えると、県内開催で小規模事業者や高齢者雇用を対象とした企画があってもよいと思う。</li> <li>・すでに面接会において外国人材支援を行っているが、今後は、さらに増やしていかなければならないと考える。</li> </ul>
小口アドバイザー	「要改善」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やまなし・しごと・プラザの目的が従来の就労支援に加えて、県内企業の労働力確保という目的が加わり、事業が難しくなっていると理解している。県内の労働力の確保に向けて一段の工夫、努力をしてほしいということ、プラザに来ていただく方の情報の活用をしてほしいという観点から「要改善」とした。</li> <li>・具体的には、一つ目は企業へのアプローチを強化してほしいということ。県内の労働力確保のためには、他の方法をとっていかないと企業の発掘はできないのではないかと考える。他の団体等を通じて企業を知って、企業に働きかける必要があると考える。企業を知ることができれば、ガイダンス等で魅力ある企業を紹介することができる。二つ目は学生へのアプローチを強化して欲しいということ。ユースバンクやまなしの登録者を増やす必要がある。学生に対する情報発信として、就職ガイダンス等を行う中で県内にはこのような良い企業があるということ併せて伝える工夫が必要。三つ目として、相談内容は貴重な情報であるため、県全体の労働行政に活用して欲しいと考える。</li> </ul>

アドバイザー	評価区分	評価内容
小澤アドバイザー	「要改善」	<ul style="list-style-type: none"><li>・ユースバンクやまなしについて、県内企業への就職を促進するために、求職者のニーズに応えたきめ細やかな就労支援が必要である。また、登録人数の増加のためリーフレットのリニューアルを検討する必要がある。</li><li>・高校生、大学生、中高年齢者、子育て中の方といった登録者数の増加に繋げるため施設利用者への周知がさらに必要ではないかと考える。</li></ul>